

鮮やかな赤橙色で見栄え抜群の年内に収穫・出荷可能な早生カンキツ「みはや」

早生カンキツ「みはや」は、果重 170 g 程度で、11 月上旬には完全着色し鮮やかな赤橙色を呈する。12 月上旬に糖度 12 程度、クエン酸 1 % 以下となり、高糖度で酸味が少なく食味の優れた品種であり、年内に成熟する高品質な早生カンキツとして有望である。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者：北村光康)

研究のねらい

熊本県では、12 月の贈答時期は主に温州ミカンが出荷されているが、県南地域の中晩生カンキツ主体の産地では、高品質な温州ミカンが生産されにくく、労力分散と収益増大を図るため、年内から出荷できる高品質な早生カンキツの育成・選抜が望まれている。

そこで、年内に成熟し、高品質で食味が良い早生カンキツを選抜する。

研究の成果**<来歴>**

「みはや」は、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所において、「津之望」に NO. 1408 (アンコール・興津早生×清見・イヨカン) を交配して育成された交雑実生であり、平成 26 年 9 月 30 日に品種登録された。本系統の特性は以下のとおりである。

1. 樹姿は直立性と開張性の中間型で、樹勢は中程度、春梢の長さは短く密生する。とげの発生は少なく短いため、栽培管理上大きな問題はない (表 1)。
2. 果実の大きさは 170 g 程度、果形は扁球形である。着色は 10 月上旬に始まり、11 月上旬には完全着色し鮮やかな赤橙色を呈する。また、果面も滑らかで見栄えが著しく優れている。剥皮性は中程度であり、浮き皮は発生しない (表 2、表 3)。
3. 12 月上旬には糖度 12 程度、クエン酸濃度 1 % 以下となり成熟期を迎えるが、その後も糖度は上昇し、本県での適熟期は 12 月中下旬頃である。高糖度で酸味の少ない品種で、「アンコール」に似た芳香があり、食味は優れている。また、果肉は軟らかく、じょうのう膜も比較的軟らかく、種子の混入は少ないため、食べやすい (表 3、図 1、2)。

普及上の留意点

1. 高糖度果実を安定的に生産するためには、水はけが良く乾燥しやすい園地に植栽し、シートマルチ栽培を行うことが望ましい。
2. 周囲に「川野なつだいたい」など花粉を多く有するカンキツがあると種子が多く混入しやすいので、植栽場所に注意が必要である。
3. 陽光面の果実は完全着色後に褪色が発生するので、鮮やかな赤橙色で見栄えの良い果実を生産するためには果面保護対策を行う必要がある。

表1 「みはや」の樹体特性

品種名	樹勢	樹姿	春梢の長さ	枝梢の密度	枝梢のとげ	
					多少	長さ
みはや	中	中	短	密	少	中

表2 「みはや」の果実特性①

品種名	果実の形	果形 ^{注)} 指数	果皮の色	果皮色(ハンター値)		果面の粗滑	剥皮の難易
				a値	a/b値		
みはや	扁球	134	赤橙	42.7	0.75	滑	中

注) 果形指数は、横径/縦径×100

表3 「みはや」の果実特性②

品種名	1果重	果肉歩合	糖度(Brix)	クエン酸濃度	糖酸比	じょうのう膜の硬さ	果汁の多少	種子数
	g	%		%				
みはや	171	79.1	13.2	0.68	19.5	やや軟	多	少

注) 平成20～25年の平均値。いずれの年も12月20日前後に調査

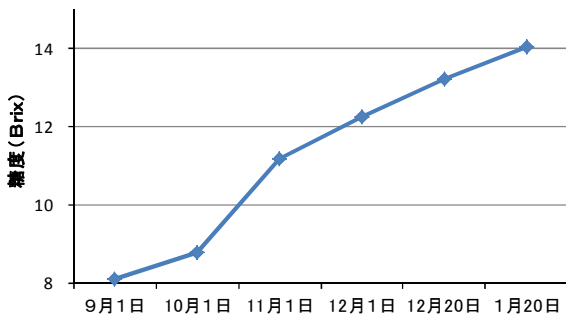


図1 「みはや」の糖度(Brix)の推移

注) 平成23～25年の平均値

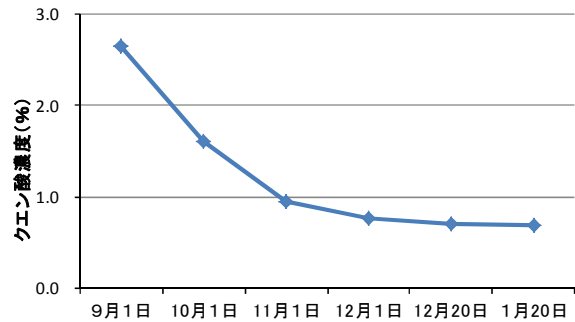


図2 「みはや」のクエン酸濃度の推移

注) 平成23～25年の平均値



写真1 「みはや」の果実 (5方向)



写真2 「みはや」の着果状況